

NEXT 2026

誰もが心動く
「リアルな体験」に
出会える社会へ

大道芸・パフォーマンスを通して、支える人も支える「笑顔の循環」をつくる

一般社団法人 青葉DE大道芸の会
代表　佐藤佳代子

一般社団法人
青葉DE大道芸の会

目次

01　会社概要

02　新規事業に対する想い

03　解決したい課題

04　対象顧客

05　顧客が抱えている課題

06　顧客への提供価値及び現状の解決策

07　目指す将来像及び解決アプローチ

08　協業先に求める要件

09　実施体制

10　この事業で実現したいこと

01 会社概要

【活動内容】

- 静岡市を拠点に、大道芸・パフォーマンスを通じて、すべての人に笑顔と感動体験を届ける活動を行う。
- 大道芸を「特別な日に見るもの」だけでなく、日常の中で人と人、想いをつなぐものとして活かす。
- 福祉・介護事業所、幼稚園（こども園）学校等、教育の場、地域、企業へのパフォーマー派遣。
- 観るだけでなく、体験型ワークショップ等の開催。
- 誰もが自由に表現できる場として、市民参加型の自主イベント【あおばフェス】の企画・運営

【自社アセット】

- 大道芸・パフォーマンスという独自のコンテンツ
- パフォーマー（全国各地）とのネットワーク
- 福祉・教育・地域との接点
- 現場での実践経験
- イベント・派遣の企画・調整・運営経験
- 現場で生まれる「心が動く瞬間」を見てきた経験
- 代表を含み3名とパフォーマーの協力による運営
- 2024年 一般社団法人設立

なぜ、この事業に取り組むのか

現場に足を運ぶ中で、パフォーマンスによって利用者や子どもたちの表情が変わり、その笑顔が職員・家族・周囲の人へ広がっていく場面を何度も見てきた。

利用者・子ども

笑う・驚く・一歩踏み出す

職員・家族

一緒に笑う・安心する

地域・企業

つながり・参加価値

だから届けたいのは「大道芸」そのものだけではなく
そこから生まれる「心が動くリアルな体験」と「笑顔の連鎖」

02-1 なぜ、大道芸なのか

大道芸は、同じ場所にいる人の間に年齢や立場を越えて「心が動く瞬間」をつくれる。

①その場で起きる

目の前で起きる驚き・笑い・感動
をその場にいる人と共有できる。

映像や物を「見る」だけではない
「今、ここ」で生まれる体験。

②参加の仕方を選べる

見るだけでもいい。
笑っても、拍手してもいい。
一歩参加してもいい。

一人ひとりが、自分の距離感で
体験できる。

③人と人をつなぐ

利用者と職員、子どもと先生、
家族と地域などが同じものを見て
笑い、驚く。

普段の役割を越えた会話や交流が
生まれる

私たちが届けたいのは、大道芸そのものだけではない。
大道芸だから生み出せる「心が動くリアルな体験」を届けたい。

02-2 「誰もが、いつ、どんな立場になるか分からない」

今日、支える側にいる人が、明日は支えられる側になるかもしれない。
だから、体験を「誰かのため」だけに限定せず、すべての人のためのものにしたい。

体験を受け取る人

- 利用者・子ども・高齢者・家族など
「楽しむこと」「心が動くこと」が必要な人。
- その人の状態や参加の仕方に合わせて無理なく体験できることを大切にする。

体験を届ける人・組織

- 職員・先生・施設・学校など日々人を支えている現場。
- 体験を企画する負担やレクリエーションの負担を減らし「働く人自身も楽しい時間を持てる」ことも価値にする。

「支える人も支える」ことで、また誰かを支える力が生まれる。

02-3 企業を「資金を出す側」だけにしない

①体験を必要とする現場

「福祉・介護・教育など」

利用者・子どもへの体験
＋
職員の負担軽減
＋
レクリエーションを企画・準備する負担の軽減

＝働く人にも
「楽しい時間」が生まれる

②届ける企業・組織

地域貢献・社会貢献だけではなく、社員・スタッフが地域や人とかかわる機会

「誰かを支える」ことが、自分たちの働く意味やつながりにもなる

福利厚生・職場づくりの一つとしても捉える

③パフォーマー

専門性を活かし人の心を動かす

継続的な活動機会
＋
自分の表現が誰かの力になる実感

＝活動の価値が地域の中で循環する

④青葉DE大道芸の会

企画・調整・現場理解・対応

３者をつなぎ継続できる仕組みにする

「誰か一方のため」ではなく、関わる人すべてに価値が返ってくる仕組み。

03 解決したい課題

「届けたい」という思いを、単発で終わらない事業にできていない

【現状】

- 現場へパフォーマンスを届ける実践は積み重ねてきた。
- しかし、体験を必要としているすべての現場へ継続的に届けられているわけではない。
- 予算や人員などの理由で、必要だと思っていても機会を諦める現場がある。

【解決したい経営・事業課題】

- 「体験を届ける活動」を継続可能な事業へ転換すること
- 企業・現場・パフォーマーそれぞれに価値が生まれる仕組みをつくること。
- 静岡で実証し、他地域にも展開できる仕組み・ノウハウをつくること。

単に「予算がないから誰かに出してもらう」のではなく価値を循環させる仕組みが必要。

04 対象顧客

共感を集め、購入前の小さな迷いをほどいていく。

①価値を購入・支援する側

- 地域貢献・社会貢献に取り組みたい企業
- 福利厚生や職場づくりを充実させたい企業
- 地域との接点をつくりたい企業

②体験を受け取る側

- 福祉・介護の現場

⇒心が動く体験、交流、QOL向上

- 幼稚園・学校などの教育の現場

⇒子どもたちの体験・挑戦・交流

- 観光や地域

⇒人を呼ぶ、回遊、消費、地域活性化

- 企業

⇒地域貢献・福利厚生・社員の交流

- イベント・まちづくり

⇒人をつなぐ・場をつくる

05 顧客が抱えている課題

届けたい。でも、届かない。

現場側

- 体験を必要としていても、予算・人員・手配の負担から機会をつくりにくい。
- 「やってあげたい」という思いがあっても、継続的な仕組みにならない。

企業側

- 地域貢献・社会貢献、福利厚生、職場づくり等で地域と関わりたい。
- 一方で「どこに・どう届けるか」という接点が不足している。

構造的な課題

- 単に資金を出す／公演を届けるだけでは継続しにくい。
- 企業・現場・パフォーマーをつなぎ、価値を循環させる仕組みが不足している。

05-1 もう一つの課題-パフォーマーの価値と立場

体験を届けたい現場に予算がないとき
その負担を、プロとして技術を身につけたパフォーマーが引き受けてきた面があります。

現場に予算をつけることが
難しい

⇒

好意・ボランティア・本来の価値
に見合わない条件で
パフォーマーが引き受ける

⇒

単発では成り立っても
継続的な活動には
つながりにくい

こうした状況を、パフォーマー個人の善意や努力に頼り続けることには限界があります。
大道芸が地域に根付いている静岡であっても、技術や専門性を「仕事」として継続的に活かせる環境が
十分に整っているとは限りません。
だからこそ体験を届ける仕組みと同時に、その体験を生み出すパフォーマーの価値と立場も大切にして
無理なく続 けられる仕組みをつくる。

06 顧客への提供価値及び現状の解決策

BEFORE

体験を届けたい
⇩
予算・人員・手配の壁
⇩
機会を諦める

⇒

新しい仕組み

企業×青葉DE×現場×パフォーマンス
⇩
価値をつなぎ継続して届ける

⇒

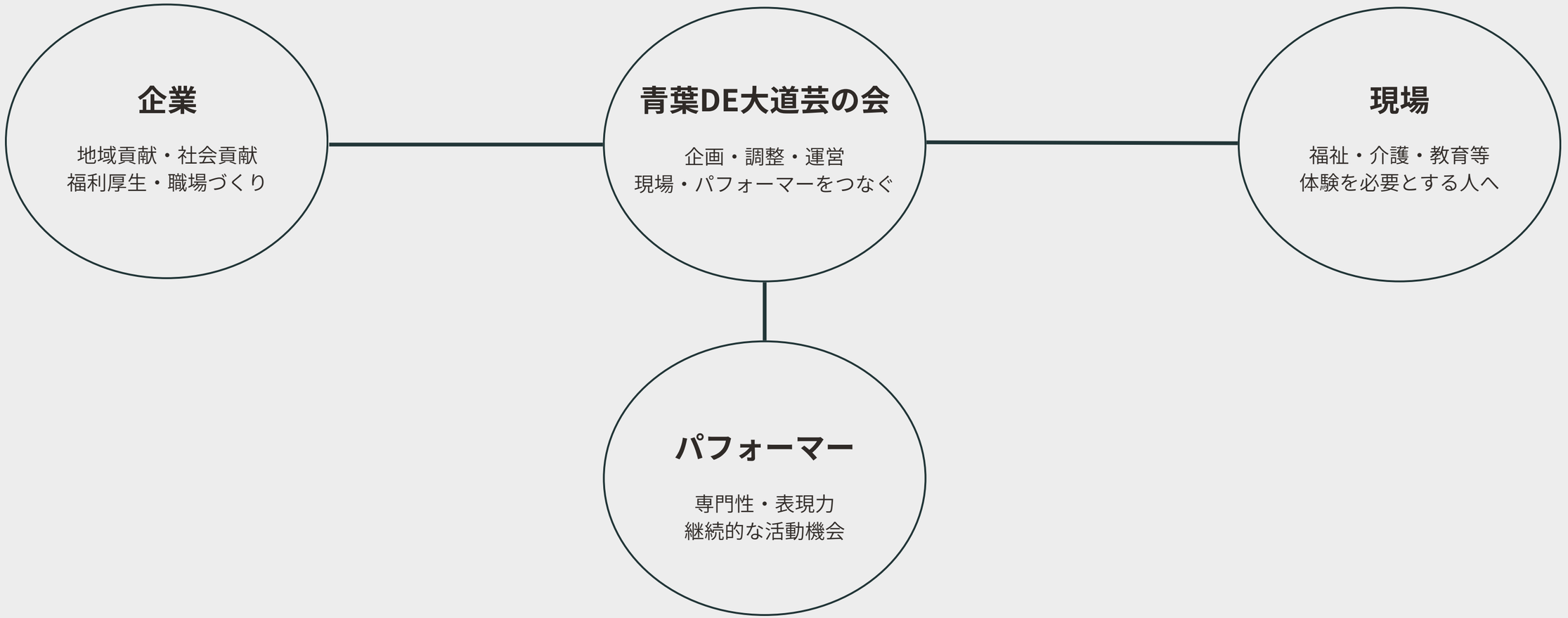
AFTER

現場：体験が届く
⇩
企業：参加する意味が生まれる
⇩
パフォーマー：活動機会が生まれる
⇒笑顔の循環

「大道芸」を届けるのではなく、大道芸を活用して「人・地域・企業の課題」を解決する。

07 目指す将来像及び解決アプローチ

「体験を届ける」を、続いていく事業にする



07-1 価値の循環をもう一段深く

現場側(福祉・介護・教育)

- 利用者やこどもに体験が届く
- 職員が一緒に楽しめる
- レクリエーション企画や準備の負担を減らせる
- 「支える人も支える」環境に繋がる

企業・組織

- 地域貢献・社会貢献の機会
- 社員・スタッフが地域と関わる機会
- 福利厚生・職場づくりの一つとして活用
- 「誰かを支える」ことを自分たちの価値にもできる

パフォーマー

- 専門性・表現力を活かせる
- 継続的な活動機会
- 自分の表現が誰かの心を動かす実感
- 地域の中で活動する意味が生まれる

3つの価値を、青葉DE大道芸の会がつなぐ
「お金 → 公演」という一方向ではなく、「価値 → 体験 → 力 → 次の体験」という循環へ。

08 協業先に求める要件

私たちが持っているもの

・独自のコンテンツ

・パフォーマーのネットワーク

・福祉・教育・地域との接点

・現場での実践経験

・企画・調整・運営経験

・理念と現場への理解

NEXTで一緒につくってほしいもの

①事業モデル・ビジネス設計
誰が、何に対して対価を払うのか

②企業と届け先をつなぐ仕組み
企業の目的と、現場・地域のニーズをどうマッチングするか

③体験価値の可視化・エビデンス
何が、誰に、どんな変化を生んだのかをどう測るか

④デジタルを活用した「新しい届け方」
オンラインにとどまらない、リアル×デジタルの可視化

⑤認知・発信の仕組み
この活動をどう知ってもらい、地域・企業・人を巻き込んでいくか

求めるのは「資金提供」だけではなく、事業を共につくる仲間。

09 実施体制

（一社）青葉DE大道芸の会

代表理事・佐藤佳代子を中心に
コンテンツ／現場／パフォーマー
企画・調整を担う

協業先

事業設計／マッチング
価値設計／可視化
デジタル活用等を担う

企業

地域貢献・社会貢献
福利厚生・職場づくり等の
目的で参加

現場

福祉・介護・教育等
体験を必要とする人・職員等へ
実証的に提供

年齢や立場を越えて、同じ瞬間を楽しむ。
私たちは、こうした「心が動くリアルな体験」を現場で届けてきました。







10 この事業で実現したいこと

誰も取りこぼさない、誰もが体験できる、インクルーシブな社会へ。

静岡で生まれた小さな実践を、 地域の中で続いていく仕組みへ。

「心が動くリアルな体験」が、必要としている人に届き続ける
利用者だけでなく、そこで働く人、家族、企業、地域へ笑顔が広がる
支える人も支えることで、また誰かを支える力が生まれる

NEXTで私たちの「現場」と「人」と「想い」に、別の力を掛け合わせたい